連載

いのちのひろば（15）

毎月1回、中旬の水曜日に掲載

在宅医療について

小田原医師会会員
（介護保険・訪問診療委員会）福井慶太郎

今月のひとこと

通院が難しいとき、訪問診療という選択肢があります。かかりつけ医や医師会地域医療連携室などにご相談ください。あなたの病気、あなたの生活、あなたの思いを支えます。

在宅医療を選んだある患者さん家族

「先生、このまま家で最期まで診てくれませんか——」

4月初旬。春のやわらかな日差しが差し込む縁側に置かれた介護ベッドに座りながら、87歳の前村さんは私に言いました。

「私、この家が好きなんです。夫や娘たちや孫たちと一緒に過ごしたこの家で、最期を迎えたいんです」

前村さんは、近い将来自分の最期がやってくることを、静かな覚悟をもって受け入れていました。

肺がんを患ってから、さまざまな治療を頑張ってきた前村さんと私が出会ったのは、3カ月前でした。少し体調の悪い旦那さんと2人暮らしでしたが、肺がんの治療が始まってからは県内の3人の娘さんが毎日交代で介護に来ていました。

しかし肺がんが全身に転移し始め、治療の効果がみられなくなったため、ご本人とご家族が在宅療養を希望され、1月に私の外来にやってきたのです。

通院困難な場合の選択肢「訪問診療」

ひと昔前「往診」と呼ばれていた医療は、現在は「訪問診療」と呼ぶのが一般的です。医療全体の中で訪問診療の数は徐々に増え、制度も整備されてきました。訪問診療が増えてきた理由は2つあります。

ひとつは「病院は治療する場所である」という病院の機能を重視するようになったため、病院での治療が終われば退院（あるいは転院）するというシステムになってきたこと。もうひとつは「病気を抱えながらも慣れ親しんだ場所で過ごしたい」という前村さんのような方が増えてきたことです。

では訪問診療は誰でも受けられるのでしょうか？　実は、病気の種類や、介護保険の有無や、介護度は関係ありません。唯一の条件は「自力での通院が困難であると医師が判断した人」です。認知症の方、パーキンソン病のような神経難病の方、心不全が悪化し車椅子が欠かせない方、脊柱管狭窄症や膝の軟骨が減って歩くのが大変な方、あるいは高齢のご夫婦世帯で大きな病気はなく自宅の庭くらいまでは出歩けるけれどの通院は難しい場合なども訪問診療ができます。

必要な治療と看護で穏やかな自宅の生活

前村さんは肺がんのため体力が落ち、通院が難しくなったため訪問診療が開始されました。

当初は2週ごとに訪問診療をしていました。お孫さんの話をうかがったり、ご家族と一緒に作ったお漬物をいただいたりしながら穏やかな日々が続きました。

しかし徐々に室内を歩くとき息切れを感じるようになりました。そこでまず自宅で体の中の酸素を測ったり、血液検査や超音波検査で内臓の調子を確認しました。

その結果、胸に少し水がたまり始め、これが、呼吸が苦しい原因であることがわかりました。そこで部屋に酸素を作る器械をおいて酸素を吸いながら生活することになりました。また、訪問看護師さんにも定期的に来てもらい、こまめに体調のチェックをするようにしました。

在宅でも検査は可能 医療チームがサポート

在宅ではどんな医療が受けられるのでしょうか？多くの場合、血液検査、尿検査、点滴や注射は可能です。医師が器械を持っていれば超音波検査や心電図もできます。また酸素吸入や人工呼吸器や胃ろう栄養も可能です。がんのターミナルの方にはモルヒネの注射で痛みを抑えることもできます。家で過ごすためのいろいろな方法を駆使しながら、安心して在宅療養できるようサポートするのが訪問診療です。

また在宅療養を支えるのは医師による訪問診療だけではありません。訪問看護、訪問リハビリ、訪問入浴、ヘルパー、ケアマネジャー、訪問薬剤師、訪問栄養士、行政、通所サービス、地域医療連携室など様々な人たちと一緒に、チームで在宅療養をサポートします。

患者さんの胸の奥の言葉を聞いて

酸素吸入が始まってからは毎週、前村さんのお宅を訪問しましたが、つらそうな表情は見せず、前村さんはいつも笑顔で迎えてくれました。

ある春の日、いつもと同じように血圧を測定しその値が安定していることをお伝えすると、

「先生、やっぱり治らないのかな……」

質問ともつぶやきともとれる言葉が、前村さん口からこぼれました。治ることは難しいと受け入れた上で在宅療養を選択された前村さんでしたが、わずかでも治るのぞみはないのか、という揺れる思いを持っているんだということがわかりました。

私はなんと応えていいのかわかりませんでしたので、しわが深くなった前村さんの手に、そっと私の手を重ねました。

そしてしばらくして前村さんがおっしゃったのが、冒頭の言葉でした。

最期まで家族と—思いを叶えた医療

それからほどなく、前村さんは寝たきりになりました。訪問看護やヘルパーが頻繁に手伝いに来ていましたが、娘さんたちも、体を拭いてあげたり、おむつを取り替えてあげたり熱心に介護されていました。

4月も終わりに差し掛かったある日。前村さんの呼吸が急に苦しくなりました。いろいろお薬を使っても、酸素の量を増やしてもなかなか楽にならず、酸素マスクをした前村さんは眉間にシワを寄せて、肩で呼吸をしていました。最期の時が迫っていることは誰の目にも明らかでした。

私は3人の娘さんに、薬を使ってぼーっと眠ることで苦しさを感じなくする方法があり、前村さんが楽に過ごせるようになる方法はそれしかないことを説明しました。当然娘さんたちはその方法に賛同してくれると思っていました。しかし違いました。

「最期まで母と話したいんです」

眼の前で苦しんでいる前村さんを楽にする方法があるのに、それをご家族が希望されない状況に私は葛藤しました。もう一度説得するのか、ご家族の希望を優先するか。そこで私は前村さん自身にどうしてほしいか聞くことにしました。苦しいからきっと眠らせてほしいと言うだろと予想していたのです。ところが前村さんは「このままで……先生……お願い……」

息苦しさから途切れ途切れの言葉しか出ないのにもかかわらず、前村さん自身も娘さんと同じ思いでした。どんなことがあっても、最期までご家族と言葉をかわすことが、前村さん親子にとって最も大切なことだったのです。

私は覚悟を決め、それ以外の方法でできる限りのケアをしました。

そして次の日、前村さんは息を引き取りました。20人以上のご家族や親戚の方、そして私たち医療スタッフに囲まれ、みんなに声をかけてもらいながら最期を迎えることができたのです。

娘さんたちは、息を引き取る直前まで、前村さんと「ありがとう」と言葉を掛け合えたことを、涙ながらに、けれど笑顔でとても大切な時間が過ごせたとお話されていました。

＊

病院とは違い、在宅にはそれぞれの「生活」があり、それぞれの「思い」や「人生」があって当たり前の場所です。患者さんやご家族が大切にしていること、そしてその時その時の思いを丁寧に伺いながら、それを叶える医療。それが訪問診療なのです。

（ふくい・けいたろう　1981年小田原生まれ。栄光学園高等学校卒業、名古屋市立大学卒業。北海道家庭医療学センターで家庭医療専門医を取得後、同法人のフェローシップを修了し、九州で家庭医療クリニックを立ち上げる。福井内科消化器科クリニック医師。日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医・家庭医療指導医、日本医師会認定産業医）

次回は7月中旬に掲載
「おだわら看護専門学校」についてお伝えします。

☆小田原医師会の地域医療連携室は、在宅医療の相談窓口としても役立ちます。ご相談ください。☎0465-47-0823
http://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/cooperation.html

☆小田原医師会訪問看護ステーションは、小田原保健センター内（小田原市酒匂2－32－16）です。
☎訪問看護部門：0465-47-0853、居宅部門：0465-45-6070
FAX（共通）：0465-47-0913　メールodnurse@titan.ocn.ne.jp

小田原医師会　地域連携室から…

急病になった時は…

まず、かかりつけの医師に電話で相談してください。日頃から急病の時どうするか、かかりつけの医師と話合っておきましょう。

かかりつけの医師が不在の場合は…

平日・土曜の昼間	地域医療連携室が医療機関をご案内 TEL.0465-47-0833
休日の昼間・夜間	小田原市休日夜間急患診療所へお電話 TEL.0465-47-0823
休日の深夜	午後10時以降は小田原消防署へお電話 TEL.0465-49-0119

医療機関検索は小田原医師会のサイトから利用できます
http://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/

休日・夜間の急患診療所はこちら

小田原市保健センター　内
小田原市酒匂2-32-16 / TEL 0465-47-0823
◆休日（日曜日・祝日）
受付時間：8:30～11:30，13:00～15:30
診療科目：内科・小児科・耳鼻咽喉科
眼科（第1・3日曜日、県の当番日）
◆土・日・祝日の夜間
受付時間：18:00～22:00
診療科目：内科・小児科
◆平日の夜間
受付時間：19:00～22:00
診療科目：内科・小児科

—美味しさいろいろ—　味の散歩道

中華四川　特製タンタン麺　国府津松田線　電話 42五四五一

大小宴会場ございます　御祝事・御法事・御会合　立食パーティー等、御利用下さい。　寿司・各種和食　仕出し致します。　小田原市西酒匂 1－3－50　営業時間 AM11：00～PM9：00　電話（48）4315　http://www.sushimasa.co.jp/　さかわ川畔 すし政 Sushimasa

寿司・和食処　小田原名物　あじの生ずし・あじたたき　天ぷら・うなぎ・焼魚定食　煮魚定食　営業時間 午前十一時～午後九時　ランチタイム 十一時～二時三十分（平日）　定休日（第一、三木曜日）　うおがし　小田原駅前　小田原市栄町二－八－三九　☎〇四六五－二三－一一七〇

うなぎ 鳥料理 あかまき 智久　でんわおだわら（22）0267・0268

身近なニュースをお届けする日刊紙『神静民報』ご購読のお申し込みは下記の販売店へ　●定価1ヵ月2,000円　●1部売り90円　小田原市立病院売店、大雄山線小田原駅・大雄山駅改札、ジャンボーナックビル（カフェ・リーフ）で1部売り好評発売中!

小田原地区
■読売新聞　読売センター　小田原報徳 ☎0465(36)3683　小田原西部店 ☎0465(35)0746　小田原中央店 ☎0465(24)5050　酒匂店 ☎0465(48)0007
■毎日新聞小田原中央販売所 ☎0465(87)5313
■ASA小田原(有)曽和新聞店 ☎0465(23)3300
■毎日新聞小田原北部販売所 ☎0465(34)7538
■ASA鴨宮 ☎0465(47)5422
■読売新聞鴨宮専売所 ☎0465(47)3644
■ASA国府津 ☎0465(47)2568
■読売新聞(有)佐藤新聞店 ☎0465(47)3351
■ASA小田原富水 ☎0120(36)3775
■ASA栢山 ☎0465(37)1767
■ASA小田原東部 ☎0465(24)3012
■今井新聞店 ☎0465(42)0340
足柄下地区
■(有)湯本新聞販売所 ☎0460(85)5264
■真鶴・湯河原新聞販売所 ☎0465(63)3399
■読売センター湯河原 ☎0465(62)7889
■ASA湯河原 ☎0465(62)6834
南足柄・足柄上地区
■読売新聞　読売センター小田原城北店 ☎0465(74)9061
■(株)内藤新聞店　開成店 ☎0465(83)3500　南足柄店 ☎0465(72)0234
■大井松田新聞店 ☎0465(82)0574
■杉山新聞店 ☎0465(75)0356
秦野地区
■読売新聞秦野専売所 ☎0463(82)0290
■(有)北湘読売開発 ☎0463(82)7335
■渋沢東部新聞販売店 ☎0463(87)3680
■ASA渋沢 ☎0463(88)0589
■栗原新聞店 ☎0463(88)0058
二宮・大磯地区
■毎日国府本郷専売所 ☎0463(72)3272
■ASA二宮 ☎0463(71)1157